

血管性紫斑病(アレルギー性紫斑病)の登録に関する調査研究

研究協力者: 小宮山 淳 信州大学小児科教授

共同研究者: 上條 岳彦 信州大学小児科助手

研究要旨: 血管性紫斑病(アレルギー性紫斑病)は、平成10年2月分から対象基準が改正された。この基準改正に伴う登録状況の変化を調査、解析した。血友病等血液疾患に占める血管性紫斑病の割合は、全国的にはいまだに減少していなかったが、長野県においては基準改正前(平成9年度: 35.5%)と比較して改正後には減少していた(平成10年度: 21.9%)。血管性紫斑病の新規登録状況と紫斑病性腎炎の新規登録状況を各地域で調査したところ、地域によってはこの二項目の間に正の相関が認められず、これらの疾患の登録においてのなんらかの人為的なバイアスが示唆された。血管性紫斑病と紫斑病性腎炎の登録については対象基準の検討がさらに必要と思われる。

A. 研究目的

平成9年12月、「小児慢性特定疾患治療研究事業の対象疾患について」の一部改正が行われた。血管性紫斑病については対象基準が「発病後2ヶ月を経過したもの」と変更され、平成10年2月申請分から適応されることとなった。以後1年が経過し、今回の改正に伴う登録状況の変化を全国の広範な地域にわたって検討してみた。また紫斑病性腎炎は血管性紫斑病に合併する腎炎であり、紫斑病性腎炎の慢性腎疾患における登録状況と血管性紫斑病の血友病等血液疾患における登録状況の間との相関が予測され、これについて調査を行った。

B. 研究方法

平成10年度における血管性紫斑病および紫斑病性腎炎の登録状況を地域毎に

調査し比較した。

調査対象地域は東京都、名古屋市、岩手県、宮城県、山梨県、千葉県、京都府、大阪府、広島県、山口県、香川県、鹿児島県、宮崎県、沖縄県、長野県を用いた。

調査期間は全国各地の集計については平成6年度と平成10年度、長野県については平成9年度と平成10年度とした。

血管性紫斑病の血友病等血液疾患の中で占める割合および紫斑病性腎炎の慢性腎疾患の中で占める割合を算出し、血管性紫斑病については基準改正前のデータとの比較検討および平成10年度の各地域間での登録状況の検討、紫斑病性腎炎については平成10年度の各地域間での登録状況の検討を行った。

C. 研究結果

基準改正前と基準改正後の登録状況については平成6年度: 33.2%から平

成10年度：37%と全国的には余り変化がみられなかったが、長野県については平成9年度：35.5%から平成10年度：21.9%と改正後には明らかに減少していた（表1）。平成10年度の長野県の登録者比率：21.9%は平成10年度の全国各地の集計結果：37%より明らかに少なかった。

血管性紫斑病の血友病等血液疾患の中で占める割合を各地域で検討してみた（図1-A）。地域間での差が大きく、地域によって対象基準の解釈に差がある可能性が示唆された。

次に血管性紫斑病の新規登録状況（図1-B）と紫斑病性腎炎の新規登録状況（図1-C）を各地域で調査したところ、地域によってはこの二項目の間に明らかな解離が認められた。山梨県、京都府、沖縄県では（血管性紫斑病の血友病等血液疾患の中で占める割合）÷（紫斑病性腎炎の腎疾患の中で占める割合）が7倍以上になっていた。

D. 考察

「小児慢性特定疾患治療研究事業」は慢性疾患を対象とするものであり、今回

の対象基準改正は妥当なものと思われる。遺憾ながら、その効果はいまだに十分な結果には至っていない。長野県においては研究協力者が判定委員に加わり対象基準の改正の啓発に留意している点が登録者比率の減少につながったと思われる。今後は血管性紫斑病の対象基準が変更となったことを各自治体の判定委員および主治医にさらに伝達していく必要がある。

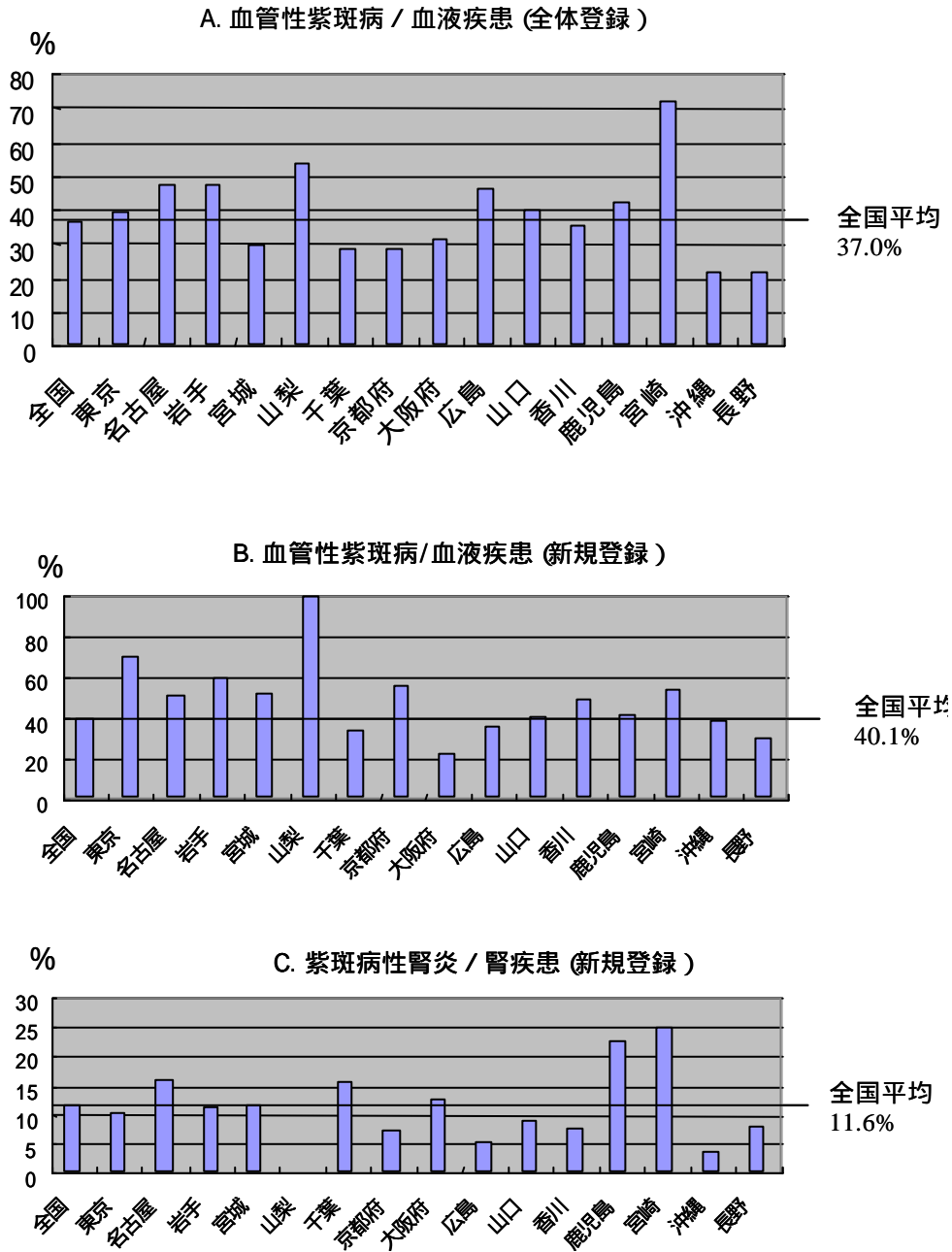
紫斑病性腎炎は血管性紫斑病に合併する腎炎であり、この慢性腎疾患における登録状況と血管性紫斑病の血友病等血液疾患における登録状況の間にはある程度の正の相関が認められるのではないかと推測された。しかしながら地域によってはこれらの登録者比率の間に明らかな解離が認められた。これは自治体によっては外来通院者の小児慢性特定疾患治療研究事業への登録を認めておらず、紫斑病腎炎が主な疾病である患者を血管性紫斑病として登録している可能性が推測された。血管性紫斑病および合併する紫斑病性腎炎の発症状況を正しく把握するためには現在のこれらの対象基準、登録法をさらに検討すべきであると思われた。

表1. 平成6年度と平成10年度の登録状況の変化

地域	期間	血友病等血液疾患 (A)	血管性紫斑病 (B)	B/A (%)
全国	平成6年度	14,482	4,813	33.2
	平成10年度	5,028	1,858	37.0
長野県	平成9年度	259	92	35.5
	平成10年度	187	41	21.9

単位：人数

図1 血管性紫斑病 / 紫斑病性腎炎の
平成10年度における地域別登録状況



- A. 血友病等血液疾患平成10年度登録者に占める血管性紫斑病の比率
- B. 血友病等血液疾患平成10年度新規登録者に占める血管性紫斑病の比率
- C. 慢性腎疾患平成10年度新規登録者に占める紫斑病性腎炎の比率